

復習1: 歯車の歯数と減速比, 角速度, トルクの計算

- 物体を回転させようとする能力をトルクという

トルク = 回転軸までの距離 \times (接線方向の) 力
[Nm]

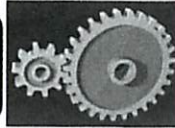
※ベクトルでは外積 $\ell \times F$ で計算

- 歯数が少→多と歯車をつなげると, 歯数が多い歯車の回転は遅く, トルクは大きくなる

$$\text{減速比} = \frac{\text{回転数1}}{\text{回転数2}} = \frac{\text{角速度1}}{\text{角速度2}} = \frac{\text{歯数2}}{\text{歯数1}} = \frac{\text{トルク2}}{\text{トルク1}}$$

角速度 rad/s:
1秒間に何ラジアン回るか

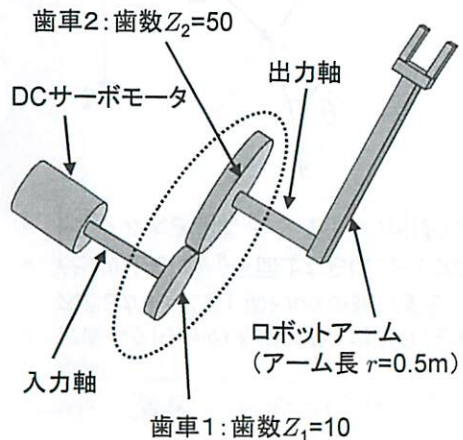
rpm: 1分間での回転回数
(revolution per minute)



図出典: wikipedia

演習1(続き)

- 次に, DCサーボモータを3 Nmのトルクで回転させると,



出力軸のトルクは

$$\tau = \tau_{in} \times R = 3 \times 5 = 15 \text{ Nm}$$

アーム先端が回転の接線方向に発生する力は

$$F = \tau / r = 15 / 0.5 = 30 \text{ N}$$

となる。(ただし損失は無視とする)

$$F \times r = \tau$$

演習1

- DCサーボモータが回転し, その先に下図のように歯車, ロボットアームがつながれている

減速比 R は,

$$R = \frac{Z_2}{Z_1} = \frac{50}{10} = 5 \quad (1)$$

100 rpmで入力軸が回転するとき, 歯車2の回転数 N_2 は

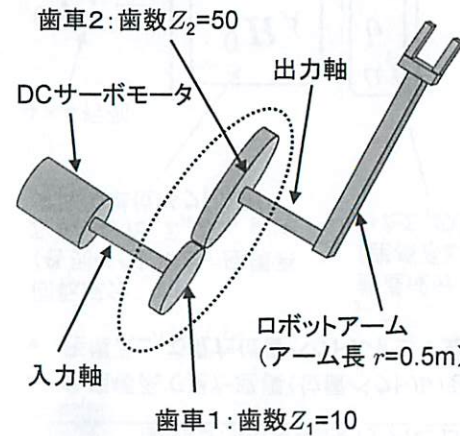
$$N_2 = N_1 / 5 = 100 / 5 = 20 \text{ rpm}$$

その角速度は,

$$\omega = \frac{2}{3} \pi \text{ rad/s}$$

また, アーム先端の(接線方向の)速度は

$$v = \frac{2}{3} \pi \times 0.5 = \frac{1}{3} \pi \text{ m/s}$$



歯車1: 歯数 $Z_1=10$

歯車2: 歯数 $Z_2=50$

出力軸

入力軸

ロボットアーム
(アーム長 $r=0.5\text{m}$)

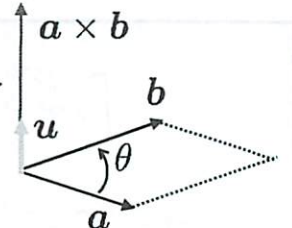
DCサーボモータ

図出典: wikipedia

復習2: ベクトルの外積

$$a = \begin{bmatrix} a_x \\ a_y \\ a_z \end{bmatrix}, \quad b = \begin{bmatrix} b_x \\ b_y \\ b_z \end{bmatrix}$$

工学では, 2つのベクトルに垂直なベクトルが欲しいときがある



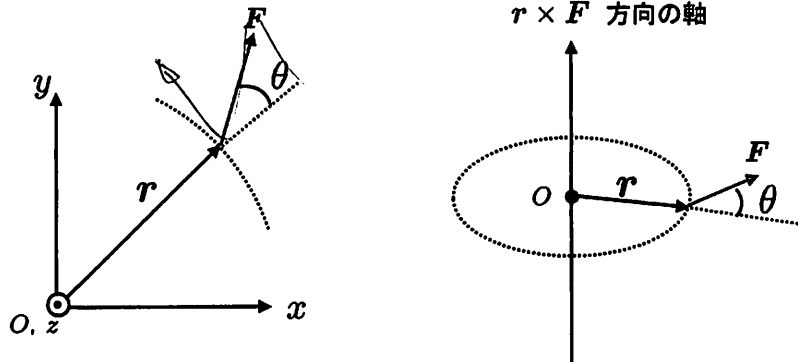
$$\begin{aligned} a \times b &= (a_y b_z - a_z b_y) i + (a_z b_x - a_x b_z) j + (a_x b_y - a_y b_x) k \\ &= \begin{bmatrix} a_y b_z - a_z b_y \\ a_z b_x - a_x b_z \\ a_x b_y - a_y b_x \end{bmatrix} \end{aligned}$$

よく使われる覚え方(たすきがけの形)

$$\begin{vmatrix} i & j & k \\ a_x & a_y & a_z \\ b_x & b_y & b_z \end{vmatrix}$$

復習2:トルク(力のモーメント)のベクトル表現

- 位置ベクトル r の先端に F の力が作用するとき、外積 $r \times F$ の向きが回転軸、大きさが $|r \times F|$ のトルクが発生する
- r と F がともに x - y 平面上ならば、トルクのベクトルの向きは、平面に垂直になる
- トルクの大きさは $|r \times F| = |r||F|\sin\theta$



※ ⊙ は画面の奥から手前に向けて z 軸があることを示す

13

演習2

下図のように、 x - y 平面上を動くロボットアームの位置ベクトル r の先端に、力 F [N] が作用している。このときのロボットアームのトルク T を求めよ。

位置ベクトル $r = \begin{bmatrix} \sqrt{3} & 1 & 0 \end{bmatrix}^T$

よって

$$T = r \times F = \begin{bmatrix} \sqrt{3} \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \times \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \cdot 2 - 0 \cdot (-1) \\ 0 \cdot 2 - \sqrt{3} \cdot 2 \\ \sqrt{3} \cdot (-1) - 1 \cdot 1 \end{bmatrix}$$

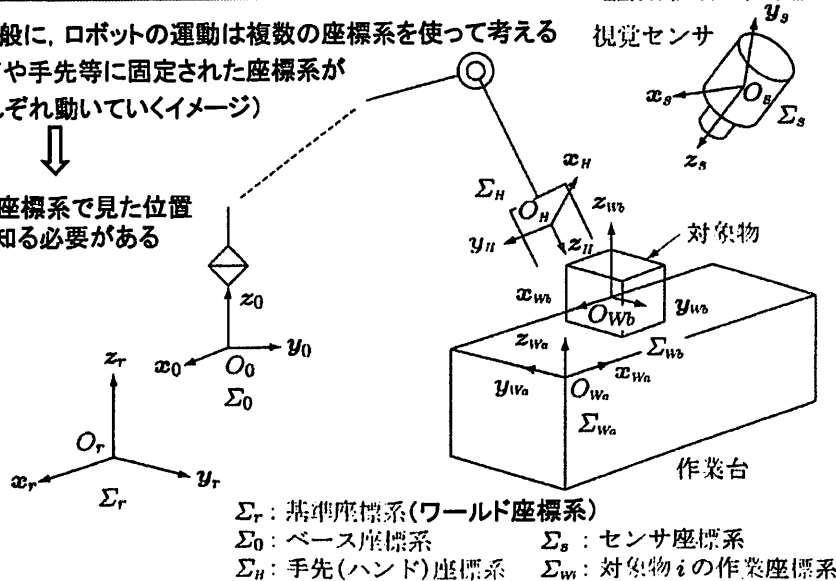
$$= \begin{bmatrix} 2 - 0 \\ 0 - 2\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} - 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ -2\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} - 1 \end{bmatrix}$$

復習3: 同次変換行列と各座標系で見た手先位置の計算

図出典: 川崎, ロボット工学の基礎第2版

- 一般に、ロボットの運動は複数の座標系を使って考える (関節や手先等に固定された座標系がそれぞれ動いていくイメージ)

- 各座標系で見た位置を知る必要がある



復習3: 同次変換行列と各座標系で見た手先位置の計算

- 各座標系で見た座標(位置ベクトル)を計算するには、同次変換行列が使われる
- 座標系 Σ_A で見た位置ベクトルを Σ_0 で見た位置ベクトルに変換する

回転成分
(各列ベクトルが、座標系 Σ_0 から見た、 Σ_A の x, y, z 方向の単位ベクトル)

並進成分
(座標系 Σ_0 から見た Σ_A の原点)

4×4行列

$${}^0T_A = \begin{bmatrix} {}^0R_A & \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \end{bmatrix} \\ \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} & \begin{bmatrix} 1 \end{bmatrix} \end{bmatrix}$$

常に0 常に1

座標系 Σ_0 での位置ベクトル

座標系 Σ_A での位置ベクトル

$$\begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ 1 \end{bmatrix} = {}^0T_A \begin{bmatrix} x' \\ y' \\ z' \\ 1 \end{bmatrix}$$

ここは常に1